

定期的に睡眠ポリグラフ検査を受けましょう

2019年11月

睡眠時無呼吸症候群は加齢に伴い病態が変化することがあります。最初は上気道の窒息による閉塞性睡眠時無呼吸症候群であったのが、呼吸中枢（呼吸の司令塔）や心臓の機能が弱って中枢型無呼吸が増えてくると気道閉塞に対する治療では効果が出にくくなります。

また、無呼吸の状態に変化がなくても、加齢、住環境の変化、服用薬の影響で眠気が悪化してくることがあります。CPAP患者は内部データで病態の変化を察することはできますが、マウスピース患者は睡眠ポリグラフでしかわかりません。どうか安全医療のため睡眠ポリグラフ検査を定期的にお受けください。眠気が強い場合は左図のようにMSLTを行い適切に治療します。

